

外科再編

外科を5部門に

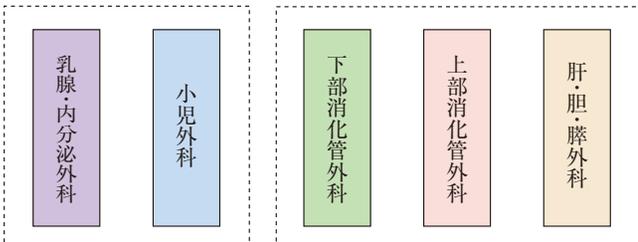
より専門的で質の高い医療の実践と
地域の医療機関との円滑な連携を目指して

当院では9月から、外科をこれまでの「第一外科」「第二外科」から、「肝・胆・膵外科」「上部消化管外科」「下部消化管外科」「小児外科」「乳腺・内分泌外科」の5部門に改編し、新しい外科診療体制をスタートいたしました。

それぞれの専門分野を配置した体制をとることで、より専門的で質の高い医療の実践と、地域の医療機関との円滑な連携を目指します。

ただし、外来としては来院される方の利便性を考え、受付は1か所に集約しています。また、わかりやすくするため、肝・胆・膵、上部消化管、下部消化管はまとめて「消化器・一般外科」として表示し、担当医の横に括弧で専門領域を示してまいります。ご不明な点があれば、お気軽に病院長スタッフにお尋ねいただけますようお願いいたします。

【外科部門】



【病床(病棟)体制】

病棟名	1号館
6西	乳腺・内分泌外科
7東	小児外科
8西	上部消化管外科
9西	下部消化管外科、上部消化管外科
11西	肝・胆・膵外科

当院では、今後も地域医療の中核となる病院として、医師はもちろんのこと看護師や薬剤師などのスタッフも含め、



病院長 山村武平



肝・胆・膵外科

診療部長 藤元治朗

当科は肝胆膵・移植・内視鏡外科に積極的に取り組み全国でも有数の施設です。

肝・原発性肝癌肝切除は一千件を超え、胆管癌・転移性肝癌も多くの実績を残してまいりました。新開発の肝切シミュレーションシステムを駆使し、安全かつ根治的な肝切除を実施中で、また低侵襲の腹腔鏡肝切除も常に行っています。

胆・腹腔鏡下胆摘術も一千例を超え、通常より創の少ない3孔式を実施中で、高度炎症例・既開腹歴症例に対しても安全に行っています。胆道・膵臓・十二指腸の腫瘍に対しては、一般には手術が困難と考えられる肝門部胆管癌や血管浸潤のある膵臓癌の方でも、肝切除や血管手術経験を活かした高度技術手術により良好な成績が得られています。また良

性膵腫瘍に対して腹腔鏡補助手術も行っています。様々な内視鏡外科手術、さらに肝硬変・劇症肝炎・肝臓に対する肝移植も行っており、体に優しい低侵襲手術から高度の先進技術手術まで幅広く要望にお応えいたしております。

上部消化管外科



診療部長 笹子三津留

二指腸疾患を担当しますが、悪性疾患が中心となります。

最先端の研究的医療と最良の手術の提供は互いに矛盾するものではなく、最高の技術があるからこそ最先端の医療も安全に行えます。日本発のエビデンス「噴門癌に対する開胸手術は行うべき

でない」など、最先端の研究成果は日常臨床に的確に反映されています。現在毎月10〜18例の胃がん手術を行い、上部消化管内科と緊密な連携をとりつつ、個々の患者さんに応じた最良の手段で(内視鏡的切除、開腹手術、化学療法など)治療を

提供し、時には両科の力を集結して治療に当たっています。最先端の機能温存手術は当科の得意分野で、遠く四国からも患者さんが受診されるようになりました。臨床教育も充実させながら、最先端の最適医療を提供していきます。

理念

兵庫医科大学病院は、安全で質の高い医療を行い、地域社会へ貢献するとともに、よき医療人を育成します。

基本方針

- 患者の立場に立った医療の実践
- 人間性豊かな、優れた医療人の育成
- 高度で、先進的な医療や医学研究の推進
- 健康増進活動による保健・福祉の推進
- 地域の医療機関との円滑な連携



私どもの病院は、学園都市西宮の東南端にあり、大阪・神戸からのアクセスも良く、年間およそ30万人の入院うち手術数8千件超および約60万人の外来患者さんの診療を行っています。組織的には29の診療科と26の中央診療施設等の専門分野に細分されるように、きめ細かい診

療体制を取っています。後者には、災害拠点病院としての救命救急センターや地域がん診療連携拠点病院としてのがんセンターやPETセンター等が含まれています。また、卒後臨床研修センターでは百名近い初期研修医が登録され、人間性豊かな優れた医療人を目指し、プライマ

リーケアを中心に研修を受けています。このような体制の中で、病院全体としては理念・基本方針に基づき、標準的な治療は勿論、特定機能病院として、高度で先進的な特色ある医療も提供しています。

患者さんの立場に立って、安全で質の高い医療とは何か、それが実践出来ているか、改善すべき点は何かを職員が常に問いかけて変革し続ける中で、患者さんや地域の医療機関から絶大な信頼が得られるような病院づくりを目指しています。

病院長 山村 武平

下部消化管外科



診療部長 富田 尚裕

下部消化管外科は、小腸・大腸・肛門の良性および悪性の様々な疾患を扱っており、年間500例前後の手術を行っています。当科は、炎症性腸疾患（IBD）グループと大腸癌グループの二つのグループから成っています。炎症性腸疾患グループ

は、潰瘍性大腸炎とクローン病を主に扱い、特に、難易度の高い潰瘍性大腸炎の手術に関しては全国1位の手術件数で、昨年末には累計一千例に達しました。一方、大腸癌グループでは主に大腸癌を対象に、これも全国トップレベルの治療成績を有していますが、特に、直腸癌における肛門温存手術、肝転移を含めた進行・再発大腸癌に対する手術と化学療法による集学的治療に精力的に取り組んでいます。

また全国規模の多施設共同臨床試験にも多く参加し、将来の大腸癌治療の進歩のためのエビデンス構築にも力を入れていきます。伝統的に家族性大腸腺腫症の症例数も多く、人工肛門造設を伴わない一期的な大腸全摘手術を行っています。このように炎症性腸疾患と大腸癌の両者を専門的に扱っている施設は、全国的にも希少であり、それが当科の特徴ともなっています。

小児外科



診療部長 奥山 宏臣

新生児から15歳までの小児を対象とした外科診療を担当しています。鼠径ヘルニア・臍ヘルニアなどのヘルニア関連疾患、痔瘻・肛門周囲膿瘍などの肛門疾患、嘔吐・便秘などの消化器疾患といった日常よくみら

れる疾患から、急性虫垂炎、腸重積症、異物誤飲といった救急疾患の診療も行っていきます。また新生児科との連携により、食道閉鎖症、腸閉鎖症、横隔膜ヘルニア、直腸肛門奇形といった新生児外科疾患の診療も行っていきます。最近ではこうした外科疾患の出生前診断にも取り組み、適切な周産期管理が行えるように産科や新生児科と協働体制をとっています。乳児期から幼児期

にかけては、小児がん、胆道閉鎖症、胆道拡張症、ヒルシュスプルング病といった専門性を要する疾患の診療も小児科と連携して行っています。こうした腹部疾患だけでなく、漏斗胸や先天性嚢胞性肺疾患といった胸部疾患に対する手術も行っていきます。また最近では、成人外科とも連携して鏡視下手術を積極的に取り入れ、体に負担の少ない小児外科を目指しています。

乳腺・内分泌外科



診療部長 三好康 雄

当科では乳がんを中心に、診断から手術さらにはホルモン療法や化学療法（抗がん剤治療）による幅広い診療を行っています。乳がんはしばしばマンモグラフィによる石灰化によって発見される場合があります。石灰化

めステレオガイド下での針生検（マンモトーム）が不可欠ですが、当院ではその装置を有しています。さらにセンチネルリンパ節（がんが最初に転移するリンパ節）生検術を行い、転移のない場合には腋窩リンパ節の郭清術を省略することによって上腕の機能を温存しています。また、乳房の術後の整容性を保つために、形成外科と共同で乳がんの手術と同時に乳房再建術を行う一二期再建術にも対応できる体制を整え

ています。術中にリンパ節転移の有無や乳がんの切除が適切に行われたかどうか、病理病理解による術中迅速診断を行い、術後には放射線科と連携して放射線治療を行っています。また再発予防を目的にホルモン療法や通院による化学療法（抗がん剤治療）も行っていきます。このように乳がんの診断から手術、術後療法まで幅広く対応できる診療体制を整えております。よろしくお願いたします。

心臓リハビリテーションのご案内

心臓病を持っている方は「運動ができない」という認識をお持ちではありませんか？その方の病状にあった運動を習慣づけることで心臓病の改善や再発の予防が認められます。その効果は種々の薬剤よりも有効という報告もあり、うまく習慣がつけば心臓リハビリテーションは、個人の医療負担も少なく自宅でも可能な有効な手段となります。

当院では2007年7月より心臓リハビリテーションを入院の方のみでなく外来の方も対象に取り組んでいます。またスタッフも専任の循環器医師、リハビリテーション医師、理学療法士が指導を行っています。

対象となる方や心臓リハビリテーションを受ける日数の制約はありませんが、その期間内にご自分にあった運動の指導と方法を身に付けていただけます。またその運動効果を通常の診療の中で判断し、患者さん方には「運動処方」という形で還元していただきます。運動習慣を持っていたことで健康に自信を持っていたり、実際に心不全の再入院が減少したりと効果をお感じいただけます。また心臓病を患ったことで陥りがちな鬱傾向も改善されるようです。

また心臓リハビリテーションには含まれません。生活習慣病をお持ちの方、特定検診での指導、メタボリック症候群に対する運動指導も行っていきます。ご活用下さいませ。

心臓リハビリテーション外来

毎週 水曜日、木曜日：12～14時
 (地域医療・総合相談センターからご予約ください)
 担当 内科冠疾患科 高橋敬子(左から2人目)
 場所 1号館3階 内科(第7診察室)
 TEL 0798-45-6200



NEWS

第3回兵庫医科大学がんセンター講演会「内視鏡で治す胃がん・食道がん」

日時 2008年10月18日(土) 15:00～17:30
 場所 兵庫医科大学 平成記念会館
 プログラム
 ●兵庫医科大学病院における早期胃癌内視鏡の実際
 ●早期食道癌、早期胃癌に対する内視鏡治療の進歩
 ●ヘリクター・ピロリ除菌による胃癌予防

入場無料
事前申込不要

兵庫医科大学大学祭

日時 2008年11月22日(土)／23日(日)

『院外処方箋の発行について』のご案内

当院では、厚生労働省が進める「医薬分業」を図るため、全面的な「院外処方せん」の発行を推進しており、12月には完全に院外処方に切り替えることとしております。院外処方せんをお渡しますの、ご希望の院外の保険薬局へお持ちいただき、お薬を受け取っていただくこととなります。院外処方せんをお持ちになるのにご都合の良い保険薬局(かかりつけ薬局)をお決めいただき、予め服用中のお薬を保険薬局にお知らせ下さい(お薬の情報提供書やお薬手帳を保険薬局に持参して下さい)。このことにより、円滑にお薬を受け取ることができます。ご自宅のご近所等に適切な保険薬局が見当たらない場合は、院外処方せん・FAXコーナー(1号館1階)でご相談をお受けいたします。ご遠慮なく申し出下さい。(精神科神経科外来は同窓口で対応)なお、院外処方せんの有効期限は発行日を含めて4日間です。4日間を過ぎますと、院外処方せんは無効になりますのでご注意ください。院外処方せんの全面発行について、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

RENEWAL

ホームページが新しくなりました!

9月から全面リニューアルオープンしました。知りたい情報をすぐに見ることができるようになりました。

<http://www.hosp.hyo-med.ac.jp/>



平成20年市民健康講座のお知らせ

兵庫医科大学病院は特定機能病院として、より高度な医療技術と医療情報を提供するとともに、地域の基幹病院として、患者さんやそのご家族、そして地域住民の皆さんとの間に医療を通じて深い信頼関係を築き、患者サービスの向上を図ることを目的として、本講座を定期的に開催しております。どなたでも、ご自由に参加できますので、どうぞ受講下さい。

開催場所 兵庫医科大学 10号館3階 第3会議室
 開催時間 午後3時～4時30分 [午後2時30分開場]

参加費無料
 申込不要(定員60名)

開催日	テーマ	講演 医師
10月8日(水)	気管支喘息について	内科リウマチ・膠原病科 松井 聖准教授
10月22日(水)	睡眠時無呼吸症候群について	内科呼吸器・RCU科 飯田 慎一郎 助教
11月12日(水)	人工関節の最近の進歩	整形外科 吉矢 晋一 教授
11月26日(水)	放射線治療の最新線	放射線科 上紺屋 憲彦 准教授
12月10日(水)	甲状腺の病気 - パセドウ病と橋本病 -	内科内分泌・代謝科 森脇 優 准教授

「ちょっといい話」募集!

兵庫医科大学病院内で起こった「ちょっといい話」を募集します。「こんな場面をみかけた」「こんないいことがあった」など、どんどんお寄せください(文字数:200文字程度)。毎号お一人の「ちょっといい話」を掲載します。※1号館1階東出入口付近に設置されたカタログスタンド横の「ちょっといい話」応募箱

WE SET SWEET
 心地よい療養環境・Careの提供をめざします。

看護職員募集中

連絡先:人材対策室 0120-456-199 (フリーダイヤル) 担当:渡部・小寺
 ホームページ <http://www.corp.hyo-med.ac.jp/recruitment/nursing/>